

ようこそ、「第4回子どもみんなプロジェクト in 鳥取」に！

テーマは「情動機能の発達と支援」です。

子どもの行動は本能的ですか。理性的ですか。

子どもの感情(情動)はどう発達していくのですか。

やる気スイッチさえ手に入れれば大人は安心できるのでしょうか・・・

そもそも人の行動は認知が呼び起こすものなののでしょうか。それとも論理が動かしているのでしょうか。はたまた周囲の環境がもたらすものなののでしょうか。感情(情動)が駆り立てているとも言えるし・・・その謎を解いていきましょう！

さて、今回の目玉は何と言っても特別講演で講師として登壇いただく藤井進也さんです。自身もドラマーであり、ハーバード大学、トロント大学で音楽と身体・心・脳の関連という新しい分野を開拓され、現在は慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(慶應SFC)にて、「分野を問わず、今後25年の未来を切り拓く教員」第一号としてご活躍されています。社会性の発達における音楽の影響に関する研究や、音楽がパーキンソン病のリハビリテーションへ応用されうることを紹介され、今最も注目されている新進気鋭の研究者であることに間違いありません。ヒトの情動や社会性の起源について新鮮な切り口で語られることにきっと参加者の情動は揺さぶられることでしょう。

次に、後半の部としてシンポジウム：「子どもの情動機能の発達と支援を考える」においては、先ず千葉大医学部が開発した「勇者の旅」授業プログラムが県内の3校で実施された成果について浦尾さんより報告を受けます。次に、今年度より鳥取市で実施された「学校のくらしアンケート」の結果等を踏まえながらも子どもたちの「居場所感」研究から見えてきたものを石本さんより紹介いただきます。そして、最後に長年作業療法士として研究を蓄積してこられ、最近では発達障害のある子の支援研究の第一人者として迎えられている長崎大の岩永さんに彼らの情動機能の発達について支援者サイドから語っていただく予定です。フロアからの質問や意見にも応じる時間も設けますので是非よろしく願います。

鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター
センター長 小林 勝年

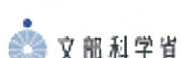
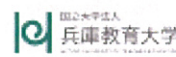
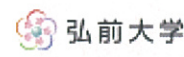
子どもみんなプロジェクトとは

2014年(平成26年)7月小林登(東京大医学部名誉教授)座長の下、「情動の科学的解明と教育等への応用に関する調査研究協力者会議」が2年間に渡る審議のまとめをされた内容に基づいて構想されました。

その中ではまず「情動」研究の必要性が挙げられておりいじめ・不登校・非行・低学力など今日子どもが抱える多くの問題は、認知・適応力・学力の基礎としての感情あるいは「情動」の問題抜きにしては語れないと謳っています。しかしながら我が国における情動研究は個々の研究者や研究機関に留まりそうした成果を教育機関へ応用することが少なかったと釘を刺しています。

そこでそうした現状を打破するために持ち上がったのが研究者と教育関係者がいつでも立ち寄れるプラットフォームづくりです。その基礎固めとし大阪大学を基幹校とする全国9大学のコンソーシアム(鳥取大、金沢大、千葉大、福井大、浜松医科大、弘前大、兵庫教育大、武庫川女子大)が2015年9月に立ちあがり、本年度は中京大学が加わり10校となりました。10校の構成は脳科学・精神医学・心理学の領域より子どもの発達と教育への応用に関して特段の研究業績を持っている大学より構成されており、鳥取大では地域学部附属子どもの発達・学習研究センターが参加しています。

「子どもみんなプロジェクト」ホームページ：<http://www.kodomo-minna.jp/>



第4回



子どもみんなプロジェクト in 鳥取 情動機能の発達と支援

日時

2018年12月9日(日)

12:30~(受付)
13:00~17:30

会場

鳥取大学地域学部棟5階
5160 教室

定員200名
定員になり次第、
締め切らせて
いただきます

参加費
無料

特別講演 「ヒトの情動・社会性はどこから起こるのか～音楽とリズムの神経科学からの視点～」
講師 藤井 進也 (慶應義塾大学SFC)

シンポジウム 「子どもの情動機能の発達と支援を考える」

座長 小林 勝年 (鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター)

シンポジスト 浦尾 悠子 (千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター)

「児童・思春期における不安の予防とコントロール」

石本 雄真 (鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 教員養成センター)

「感情表出の場としての子どもの居場所」

岩永竜一郎 (長崎大学 子どもの心の医療・教育センター)

「発達障がい児における情動機能の発達と支援」

プログラム

13:00	開会、学部長挨拶
13:10-14:10	特別講演
14:10-14:20	休憩
14:20-17:20	シンポジウム (各シンポジスト50分のトーク + 総合討論30分)
17:30	閉会

主催：鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター
後援：鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会、新日本海新聞社、NHK鳥取放送局

講師プロフィール (講演順)

特別講演

藤井進也



慶應義塾大学環境情報学部専任講師。京都大学総合人間学部卒、京都大学大学院博士課程修了、博士(人間・環境学)。日本学術振興会特別研究員DC1(京都大学)、PD(東京大学大学院、ハーバード大学メディカルスクール)。海外特別研究員(トロント大学サニーブルック研究所)、東京大学特任助教を経て、2016年9月より現職。ドラマーとしてアンミュージックスクール京都校を特待生認定修了。専門は音楽神経科学・音楽身体科学。

著書・論文等：

- ・楽器奏者の「かまない科学」：ドラマーの身体運動制御の視点から、バイオメカニクス研究、2018
- ・More feedback is better than less: Learning a novel upper limb joint coordination pattern with augmented auditory feedback, *Frontiers in Neuroscience*, 2016

シンポジウム

浦尾悠子



千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター

こころの発達支援教育部門 特任助教

著書・論文等：

- ・Effectiveness of a cognitive

behavioural therapy-based anxiety prevention programme at an elementary school in Japan: a quasi-experimental study, *Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health*, 2018.

- ・認知行動療法に基づく子どもの不安への対処力を養う予防教育プログラム「勇者の旅」(特集 子どもみんなプロジェクト)、子どものこころと脳の発達、2017

石本雄真



鳥取大学教育支援・国際交流推進機構 教員養成センター 附属学校連携部門 講師

著書・論文等：

- ・心理教育プログラム実施者の実

施前後での心理的適応および効力感の変化—発達障害児を対象とするCBTプログラムPEACEの放課後等デイサービスでの実践に関して—、鳥取大学教育研究論集、2018

- ・「ノードとしての青年期」高坂康雅(編)：日本の青年と海外の青年の社会参加の差異／青年の社会参加の促進、抑制要因／シティズンシップ教育／地域社会への参加意識を測る、ナカニシヤ出版、2018

岩永竜一郎



長崎大学医学部保健学科 教授

長崎大学子どもの心の医療・教育センター 副センター長
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授

著書・論文等：

- ・揺動型ベッドの重症心身障害児の精神的緊張感に与える影響について、日本発達系作業療法学会誌、2016
- ・Pilot study: efficacy of sensory integration therapy for Japanese children with high-functioning autism spectrum disorder, *Occup Ther Int*, 2014,

お申込み・
お問い合わせ

鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター

☎680-8551 鳥取市湖山町南4-101 ☎TEL/FAX 0857-31-5958 ✉E-mail: takahashi-e@tottori-u.ac.jp

第4回子どもみんなプロジェクト in 鳥取 参加申し込み用紙

御名前	御所属・役職	ご連絡先(メールアドレス又は電話番号)
手話通訳をご希望の方は11月2日(金)までにお申し込みください。		手話通訳希望

参加申し込み締め切り11/30(金)